

(提案1) 雇用対策は「雇用創出」よりも「雇用維持」に予算をシフトする

① “雇用創出” に潜む罠

- a. 失業者と能力のミスマッチを起こす雇用創出  
→新産業育成はほとんどがこれ。優秀な人材の参入とイノベーションの  
のちにはじめて裾野としての雇用が生まれるため不況時には効果期待薄
- b. 失業者のモラルハザードや働く意欲の喪失につながる雇用創出  
→無理に作りだした雇用の典型。戦後失業対策事業の二の舞
- c. 失業者の求める収入を得られない雇用創出  
→公務員の臨時雇用などが典型。それなら市場にある

↓

強いていうならば

雇用創出というよりも、雇用（求人）開拓こそやるべき

②以前に比べて雇用調整の手段が減り、雇用維持が困難になっている

- a. 年間総労働時間 第1次オイルショック直前は 2200 時間強  
現在は 1800 時間弱  
→残業規制できる幅が小さい
- b. 雇用形態が多様化したがる雇用形態ごとに異なる職務を担当しているため  
担当職務のシフトが困難

↓

雇用調整助成金を拡大・柔軟運用する現在の方向性は適切

(導入が難しいワークシェアリングより圧倒的によい)

2009.1 申請数約 88 万人

—もしもこの人々が失業者になったら失業率は一気に 5.5%まで上昇する

(提案2) 第二雇用保険の立ち上げを

—臨時雇用・日雇に該当する非正規労働者の失業給付整備—

正規社員 64.4%  
 常用雇用の非正規雇用者 21.7%  
 臨時雇用・日雇の非正規雇用者 10.9%←ここが問題  
 派遣社員 3.0%

正規社員の失業率 2%程度⇔臨時雇用・日雇や派遣社員の失業率 10%強  
 現在の正規社員を念頭に置いた雇用保険とは別枠で整備すべき  
 (同じ保険財源では正規社員に不公平感。非正規雇用者のモラルハザード心配)  
 負担は労使折半ではなく使用者負担で。政府からも一定の支出  
 保険料はメリット料率制を適用

↑  
 不安定雇用手当 (フランスが導入している方法) との比較検討を

(提案3) 志向のミスマッチ解消型の短期職業訓練をサービス業で整備

これまで不況のたびに、製造業→サービス業への労働移動が加速していた  
 このたびも製造業に比べて相対的にサービス業の落ち込みが小さいことから同じ動きが想定される  
 →円滑な労働移動を促す必要性

参考: 直近 5 年間の製造業離職者の転職先

	農林漁業	鉱業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業	卸売・小売業	金融・保険業	不動産業	飲食店・宿泊業	医療・福祉	教育・学習支援	郵便	サービス業	公務	他に分類されないもの
TOTAL	0.0	0.0	5.5	11.5	0.4	5.7	8.1	17.0	4.4	1.8	9.4	10.0	2.0	0.5	14.3	1.1	8.3
農林漁業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
鉱業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
建設業	0.0	0.0	45.4	8.5	0.8	2.3	6.2	9.2	1.5	4.6	5.4	3.8	0.0	0.0	8.5	0.8	3.1
<b>製造業</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>	<b>4.4</b>	<b>37.7</b>	<b>0.3</b>	<b>3.5</b>	<b>9.9</b>	<b>12.9</b>	<b>3.5</b>	<b>1.2</b>	<b>4.1</b>	<b>4.1</b>	<b>1.5</b>	<b>0.9</b>	<b>9.1</b>	<b>1.5</b>	<b>5.6</b>
電気・ガス・熱供給・水道業	0.0	0.0	20.0	20.0	40.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
情報通信業	0.0	0.0	0.8	6.3	0.0	44.5	3.1	8.6	2.3	0.0	7.0	3.1	3.9	0.0	12.5	0.0	7.8
運輸業	0.0	0.0	7.5	7.5	0.0	1.9	43.4	10.7	1.9	1.3	4.4	2.5	1.9	1.3	8.2	0.0	7.5
卸売・小売業	0.2	0.0	2.3	8.4	0.2	4.2	5.3	38.6	5.1	1.4	9.1	7.2	0.9	0.7	9.1	0.7	6.5
金融・保険業	0.0	0.0	2.2	7.4	0.0	4.4	5.1	16.2	22.8	2.9	7.4	8.8	1.5	0.0	11.8	1.5	8.1
不動産業	0.0	0.0	9.1	2.3	0.0	2.3	2.3	9.1	9.1	29.5	9.1	6.8	0.0	0.0	13.6	2.3	4.5
飲食店・宿泊業	0.0	0.0	3.1	5.5	0.4	5.5	5.9	18.4	2.7	0.4	34.9	4.7	0.4	0.0	10.6	0.4	7.1
医療・福祉	0.0	0.0	2.0	3.0	0.0	1.5	2.5	11.1	1.0	0.5	6.6	61.1	1.5	0.0	5.6	1.0	2.5
教育・学習支援	0.0	0.0	4.0	6.0	0.0	2.0	2.0	2.0	2.0	0.0	0.0	18.0	32.0	2.0	12.0	8.0	10.0
郵便	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
サービス業	0.0	0.0	1.4	8.7	0.3	3.5	4.8	11.1	2.1	1.4	5.2	4.5	1.7	0.7	47.8	0.3	6.6
公務	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	3.3	3.3	16.7	0.0	0.0	6.7	6.7	0.0	16.7	16.7	23.3
他に分類されないもの	0.0	0.0	1.6	8.7	0.0	3.9	4.7	11.0	3.9	0.8	10.2	3.1	0.8	0.0	11.8	0.8	38.6

(出所)リクルート ワークス研究所 ワーキングパーソン調査 2008

○ 新しいサービス業・職業訓練プログラムの案

- a. 現在求人が多い職域 20-30 領域に対して整備する  
 →あくまでも顕在求人ニーズが豊富にあることを前提に

- b. 期間は2週間程度として2-3プログラム受講することも可とする
- c. 実施はそれぞれの業界の主要企業に委託する  
→スキルを身につけるだけでなく、その職業を知り、意欲を持つことを狙いとする

**参考: 現在求人が多い職業**

	件数	割合
ホールスタッフ(飲食店)	17,168	17.0%
販売	11,104	11.0%
コンビニスタッフ	10,884	10.8%
調理師	6,112	6.1%
ホールスタッフ(パチンコ・遊戯場)	5,354	5.3%
調理師見習い	4,884	4.8%
物流作業	4,577	4.5%
食品製造・販売	4,512	4.5%
レジ	3,679	3.7%
ドライバー・配送	2,880	2.9%
ファッションアドバイザー	2,130	2.1%
受付	1,634	1.6%
一般事務	1,580	1.6%
ファーストフード	1,484	1.5%
清掃	1,384	1.4%
レジャー施設業務全般	1,370	1.4%
歯科助手	1,171	1.2%
ガソリンスタンドスタッフ	1,165	1.2%
歯科衛生士	1,142	1.1%
ホテルフロント	921	0.9%
看護師	870	0.9%
電話対応	861	0.9%
カラオケボックススタッフ	691	0.7%
塾講師	672	0.7%
洗い場・パントリー	560	0.6%
エステ・マッサージ	524	0.5%
ホームヘルパー	489	0.5%
CD・ビデオレンタルスタッフ	411	0.4%
イベントスタッフ	404	0.4%
インストラクター	391	0.4%
テレフォンアポインター	389	0.4%
キャンペーンスタッフ	314	0.3%
営業	217	0.2%
組立工	204	0.2%
構内作業(フォークリフト等オペレータ)	192	0.2%
キーパンチャー	154	0.2%
その他	8,416	8.3%
Total	100,894	100.0%

(出所)リクルート タウンワーク  
2008年12月の求人データ

**(提案4) 失業者を「孤立させない」サポートを**

失業している人々のなかには、単に失業給付を受ける権利を持っていないだけでなく、相談や支援をうける人がいないという人もいる

さまざまな支援プログラムがあっても、実際には知らないというケースも多い

↓

失業+孤立状態

- 失業者にまずジョブ・カードの作成を促し、そのキャリアコンサルティングの延長線上で、紹介や訓練受講に導いてゆくよう、ジョブ・カードの単独運用を進め、キャリアコンサルタントの養成を加速させる